

# Racing Topics

## ★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

### ●戸崎圭太騎手がJRA通算1200勝を達成

2月12日(土)の1回東京5日・第11レースとして行われたデイリー杯クイーンC(GⅢ)ではプレサージュリフトが1着となり、同馬に騎乗した戸崎圭太騎手(美浦・田島俊明厩舎)は、史上29人目、現役では15人目となるJRA通算1200勝(8490戦目)を達成しました。

### ●平沢健治騎手がJRA障害通算100勝を達成

2月12日(土)の2回小倉1日・第4レースではセプタリアンが1着となり、同馬に騎乗した平沢健治騎手(栗東・フリー)は、史上28人目、現役では8人目となるJRA障害通算100勝(障害994戦目)を達成しました。

### ●新規騎手免許試験に10名が合格

2022年(令和4年)度の新規騎手免許試験合格者が発表されました。JRA競馬学校騎手課程を卒業する今村聖奈(栗東・寺島良厩舎)、大久保友雅(栗東・池添学厩舎)、川端海翼(栗東・浜田多実雄厩舎)、佐々木大輔(美浦・菊川正達厩舎)、土田真翔(美浦・尾形和幸厩舎)、角田大河(栗東・石橋守厩舎)、西塚洗二(美浦・鹿戸雄一厩舎)、水沼元輝(美浦・加藤和宏厩舎)、鷲頭虎太(栗東・千田輝彦厩舎)の9名と、小牧加矢太(栗東・音無秀孝厩舎)の計10名で、3月5日(土)以降、JRAの騎手としてデビューする予定です。

### ●ソヴァリアントが故障

2021年チャレンジC(GⅢ)の勝ち馬ソヴァリアント(牡4歳/美浦・大竹正博厩舎)は、右第3中足骨々折を発症していることが判明しました。休養期間は未定です。

### ●テレグノシス、タイムパラドックスが死亡

2002年NHKマイルC(GⅠ)などの勝ち馬テレグノシス(騾23歳/JRA通算33戦5勝・海外4戦0勝)が1月30日(日)、北海道札幌市のモモセライディングファームで死亡しました。2月10日(木)には2004年ジャパンカップダート(GⅠ)や2005年・2006年JBCクラシック(GⅠ)連覇を成し遂げたタイムパラドックス(騾24歳/JRA通算32戦10勝・地方18戦6勝)が北海道浦河町のうらかわ優駿ビレッジ「AERU」で死亡しました。

## ★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

### ●ドバイワールドCに船橋のミュウチャリーが登録

ドバイワールドC(GⅠ、3月26日、メイダン、ダート2000<sup>米</sup>)に、昨年のJBCクラシックの覇者ミュウチャリー(船橋)が登録しました。また、3歳馬によるUAEダービー(GⅡ、3月26日、メイダン、ダート1900<sup>米</sup>)には、金の鞍賞の優勝馬ファーストリッキー(高知)が登録しています。

### ●シャルフジンが雲取賞(大井)を逃げ切る【各地の主要3歳重賞】

雲取賞(2月10日、大井、1800<sup>米</sup>)は、先手を取ったこれが北海道から船橋への転厩初戦で2番人気のシャルフジン(牡、父ヘニーヒューズ)が、1番人気のナッジに1馬身半差を付けて逃げ切り、ブリーダーズゴールドジュニアCに次ぐ2度目の重賞制覇。ゴールドジュニア(1月27日、笠松、1600<sup>米</sup>)は、2番手から3コーナーで先頭に立った兵庫からの遠征馬パウチェイサー(牡、父エスポワールシチー)が後続を2秒6も引き離し、単勝1.4倍の支持に応えました。梅桜賞(2月1日、名古屋、1800<sup>米</sup>、牝馬)は、逃げた1番人気の岩手からの移籍馬アップテンベスト(父エスポワールシチー)が、ゴールドウィング賞の勝ち馬ドミニクに8馬身差で圧勝、初の重賞制覇を果たしています。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

## ★海外競馬ニュース 文・秋山響★

### ●ラヴズオンリーユーがエクリプス賞を受賞

北米競馬の年度表彰であるエクリプス賞の受賞人馬が、現地時間2月10日に米国カリフォルニア州のサンタアニタパーク競馬場で発表され、日本のラヴズオンリーユー(牝、2016年生、父ディーブインパクト)が2021年の最優秀芝牝馬を受賞。日本調教馬として、そして日本産馬としても初めてエクリプス賞を受賞する快挙を成し遂げました。栗東の矢作芳人厩舎に所属したラヴズオンリーユーは昨年11月のGⅠブリーダーズCフィリー&メアターフ(芝2200<sup>米</sup>)を制して日本調教馬初となるブリーダーズC制覇を果たしたほか、4月には香港でGⅠクイーンエリザベスⅡ世C(芝2000<sup>米</sup>)、12月にも香港でGⅠ香港カップ(芝2000<sup>米</sup>)を制して年間にGⅠ・3勝をあげる活躍を見せていました。なお、年度代表馬にはブリーダーズCクラシック(ダート2000<sup>米</sup>)、ベガサスワールドC(ダート1800<sup>米</sup>)、ホイットニーS(ダート1800<sup>米</sup>)と2021年に3つのGⅠを制したニックスゴー(牡、2016年生、父ペインター、米B.コックス厩舎)が輝いています。